

キャリア教育だより

平成31年3月4日
第8号(通算88号)
高校教育課

本県では、小・中・高等学校の全時期を通じて、人や社会とかがわる中で社会性や勤労観を養い、集団や社会の中で果たすべき自己の役割を考えながら、将来の社会人としてのよりよい生き方を主体的に求めていく、『みやぎの志教育』を推進しています。今号では各校において、特徴的な取組を行っている事例を紹介します。



岩ヶ崎高校

「くりはら市役所 岩高支所」
地域の課題の解決策を提案する



岩ヶ崎高校では、地域の課題の解決に取り組むことで、自己の生き方や社会貢献のあり方を考える取組、「くりはら市役所岩高支所」を行っています。

志教育の視点

- 栗原市の抱える課題やその解決策について興味・関心を持つ。「かかわる」
- メンバーと協力して、課題の解決策を出し合い、その妥当性を討議する。「もとめる」
- 栗原市の抱える課題の解決策をまとめ、市役所に提案する。「はたす」

<学習の流れ>

- (1) アイディアの出し方、まとめ方を学ぶ。
 - ① 「くりはら市役所岩高支所」の内容と目的を理解する。
 - ② プレインストーミングとKJ法を学び、練習する。
- (2) 栗原市職員から聞いた地域の課題について、解決策を出し合い、妥当性を討議する。
 - ① 栗原市職員から出された課題のうち、興味に従ってグループに分かれる。
 - ② グループごとにプレインストーミングで解決策を出し合う。
 - ③ グループごとにKJ法で解決案を整理し、その妥当性を討議する。
- (3) 課題の解決策をまとめ、発表会で解決策を説明し、市役所に提案する。
 - ① グループ内で分担し、市役所に提案する解決策をまとめ、文章化する。
 - ② 発表会において解決策を説明し、質疑応答を経て、見直しをする。
 - ③ 解決策を完成させ、市役所に提出する。



加美農業高校

「酪農を通じた食と命の教育」
生徒が先生に！



加美農業高校は、酪農教育ファームの認証をうけています。ジュニアファシリテーターの2・3年生と見習いの1年生数名が亘理郡荒浜小学校に出向き搾乳体験や、子牛のリード体験、バターづくり等を行っています。また、乳牛の一生や、生理・生態についてわかりやすく教えています。牛が怖くて触れない児童にどのようにしたら牛を好きになってもらえるのか、とても苦労しましたが、楽しい体験、牛をかわいと思うこと、そのような経験が、命の大切さ、食のありがたさ、やがては多くのものに感謝する心を育てるのだと信じて活動しています。

よりよい生き方を「もとめる」

- ◆ 体験をとおして、困難に負けない体力と逞しい精神力を培い、次代を生き抜く技術力を育成する。
- ◆ 外部講師活用等、進路に対する明確な目的を持ち意欲的に取り組む生徒を育成する。

人と「かかわる」

- ◆ 様々な人とのかかわりを通して、豊かな人間性を育み、社会性を育成する。
- ◆ 高校生としてふさわしい、品位(みだしなみ・言葉遣い・ふるまい)、思いやりと責任のある言動がとれる生徒を育成する。

社会での役割を「はたす」

- ◆ ボランティア活動やグリーンツーリズム等を通して、集団や社会貢献における自己の役割・課題を知り、地域社会に貢献できる人材を育成する。
- ◆ 知、徳、体のバランスが取れた、考えて行動が出来る人材を育成する。



◇高校教育課では上記以外にも特徴的な事例を紹介しています。詳しくはキャリア教育班のホームページを御覧ください。
→<https://www.pref.miyagi.jp/site/sub-jigyou/car-kokorozashi.html>